

今日のキーワード 2016年の「春闘」展望（日本）

「春闘」とは春季生活闘争の略で、労働組合が賃上げなどの要求を企業側に求める労働運動のことをいいます。「春闘」という名称は、日本では4月を新年度のはじまりにする慣例があるため、労働組合が生活改善を目指し、毎年2月から3月にかけて企業と交渉することに由来しています。なお「春闘」は、このところ日銀が物価動向を見極める上で強い関心を示しており、市場関係者からも注目が集まっています。

ポイント1

交渉は業種毎に、大企業から中堅・中小企業の順に進む 賃上げには定期昇給とベアの2つがある

- 一般に労働組合は、交渉力を高めるために同じ業種の組合と一緒に企業と交渉を行います。また交渉の順番は業績が好調な業種の大手組合から始まり、大企業から中堅・中小企業へ、そして中央から地方へと進んでいきます。なお賃上げには、年齢などに応じて自動的に増える定期昇給と、賃金水準を引き上げるベースアップ（ベア）の2つがあります。

ポイント2

政府は賃上げを要請 ただ労使とも昨年ほど強気でない

- 安倍政権は大幅に改善した企業収益を踏まえ、経済界に3年連続で賃上げを要請しています。こうしたなか経団連は1月19日に発表した交渉の指針で、年収ベースでの賃上げ検討を企業に求めたものの、ベアには慎重な姿勢を示しました。
- 一方、労働組合の中央組織である連合も、2016年春闘のベア目標を「2%程度」とし、要求の勢いを2015年の「2%以上」からやや弱めました。このように賃上げについては労使とも昨年ほどの強気な姿勢はみられていません。

2016年春闘を巡る労使の動き

経団連（経営労働政策委員会報告）
● 企業の積極的な賃上げへの対応が必要。
● （定期昇給などを含む）年収ベースでの増額を求める。
連合（2016年春闘での闘争方針）
● ベアは2%程度を基準。
● 定期昇給とあわせ、計4%程度の賃上げを求める。

(出所)各種資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

賃金が伸び悩めば日銀の政策判断にも影響が及ぶ可能性

- 賃上げに慎重な理由として、中国景気に対する懸念や原油安の進行で金融市場が混乱し、円が買い戻されるなど、企業業績の先行きに不透明感が強まっていることなどが挙げられます。また物価の伸び悩みが続いていることも、大幅な賃上げの要求を難しくしている一因とみられます。
- 2015年の定期昇給分を除く平均賃上げ率（賃上げ分が明確にわかる組合の集計）は前年比+0.69%で、2016年はこれを下回る伸びになることが予想されます。賃金が伸び悩み、物価の押し上げにつながらない場合には、日銀の政策判断にも影響が及ぶ可能性があります。

ここも チェック!

2016年 1月 20日 日本株式市場は再び急落、約4年ぶりの割安さに
2015年 12月 22日 2016年の日本経済の見通し 景気は緩やかな回復が続く

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。